

1 単元名

「わたしの未来を考えよう」

2 単元設定の理由

(生徒観)

本校特別支援学級は、1年生男子1名、3年生男子1名、合計2名の在籍というかなり小規模な学級である。これは、8年前の開設時から今年度までほぼ変わっていない。

学校全体でも支援学級を合わせて8学級と小規模校である。千葉市内では交通の不便な地域であり大きな商業施設などはなく、通常学級の生徒も比較的落ち着いて生活しており、支援学級に対して温かく接してくれている。

本学級の生徒は、学区内の学校でのんびり静かに学習したいという、大人しく大らかな生徒が在籍している。少人数のため、大人とマンツーマンに近い活動が多く、仲間同士で切磋琢磨したり色々なタイプの仲間と触れ合って刺激を得たりする機会が少ない。3年生は保護者が外国籍のため、テレビのニュースやバラエティ・雑誌や近所づきあいなどから世の中のことを知ることが極端に少ない。1年生は自閉症でこだわりが強いため、生活面での自立も遅れがちで常に保護者と一緒に行動しており、やはり興味の広がりが少ない。そのためか2名とも中学生にしてはかなり幼く、素直でピュアであるが甘えん坊である。

2名とも人とかかわることは好きで物事にも一生懸命取り組むが、困難なことに挑戦したり根気や集中力を持続させて活動したりする力が弱い。週に6時間取り組んでいる作業学習では主に畑で野菜の栽培をしている。収穫した野菜は家庭へのお土産にしたり、調理実習の材料にしてできた料理を職員室にもシェアして喜んでもらったりして、食べる喜びが伴う形で意欲付けしている。また学校行事のバザーでは、ガラス細工等の手工芸品を製作し、頒布活動の楽しさや喜びも経験している。

しかし、暑さや寒さ、力仕事などを伴う活動に対して、取り掛かりは良いが作業が雑になる(3年生)、本来の活動を忘れて自分の好きな活動(虫探し)に熱中する(1年生)など、働く姿勢がまだまだ未熟である。

3年生のAさんには、半年後に迫った中学校の卒業までに作業学習の目的や自分自身の課題を意識できるようになってほしいと考えている。

(単元観)

本単元は3年生のAさんの進路学習の一部であり、来年の高等部の進学の前に「はたらく」「しごと」ということに少しでも意識を向けてほしいと考え設定した。

まず10月初旬の特別支援学校高等部の体験入学を、今までの自分とこれからの自分に真剣に向き合うきっかけとしたい。そのために体験の前に「ぼく(わたし)年表」を作成し、今までとこれからの出来事を振り返ったり想像したりしてみる。そして、何のために高等

部へ進学するのか、高等部はどんな所なのかという目的意識をもって体験してきてほしい。

次に、本時はイラストを中心に描かれている「カレーライスができるまで」（「私たちの進路」日本教育研究出版より）を教材として使用する。Aさんは、カレーライスに関して「お母さんが買い物をして作ってくれる」「レストランや給食センターで作ってくれている人がいる」ということは理解している。しかし、社会全体の中で多くの人が色々な工程に関わっているということについては深く考えたことはないであろう。この学習によって、「たくさんの方が一生懸命に働いているおかげでカレーライスを食べることができる」ということをしっかりと考えてほしい。また、色々な仕事があることに興味をもってほしい。

単元の最後には、実際に食べ物を作っている人たちの仕事を見学する。特別支援学校を卒業した人たちが美味しいパイを作っている様子を見たり食べたりすることで、自分もいつかは仕事をするというイメージを今以上にもってほしい。

（指導の工夫）

本単元は3年生のAさんが今必要としている課題に取り組むため、個別指導で行う。そして、単元の中に特別支援学校高等部と就労支援施設の2か所の体験・見学を組み込むことで、机上の学習や日常の作業学習だけでは想像できない将来の「はたらく姿」を具体的にイメージできるようにする。

本時の学習ではプリントに沿って「カレーライスができるまで」の学習をした後で、今まで自分が作業やお手伝いをした時の写真や、その時一緒に活動した人からのコメントなどを見る。そしてその時の大変だったことや嬉しかったことなどと結び付け、自分自身のこれからの「しごと」について意欲や自信をもてるようにする。

また、本生徒がかつて「コックさんになりたい」と言っていたことから、カレーライスやパイなど食べ物に関する職業にスポットを当てて学習する。そして事前にパイの試食をし、期待感をもって施設の見学に行けるようにする。

単元全体を通して、視覚や味覚に訴える体験的な学習とし、本生徒の印象に残るように心がける。

3 単元の目標

- 特別支援学校高等部の体験入学を通して、中学校卒業後の生活に期待をもつことができる。
- 「カレーライスができるまで」に働いている人がたくさんいることを知り、働く人に興味をもつことができる。
- 就労支援施設「PAL 稲毛」を見学し、食べ物を作っている人の様子を知り、将来自分がはたらく年齢になった時のことを思い描くことができる。

4 指導計画（6時間扱い）

第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな仕事」 ・「ぼく（わたし）年表」 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの色々な職業について絵を見てどんな仕事があるか考える。 ・自分の今までを振り返りこれからを想像する。 ・高等部の体験入学の目標を考える。 	2時間
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校高等部の体験入学 ・「カレーライスができるまで」 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部への体験入学（体育と作業学習への参加） ・体験入学のまとめ ・カレーライスに必要な物は何か考える。 ・カレーライスができるまでにどのような人がどんなふうに住んでいるか考える。 	2時間 (本時 2/2)
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ・「パイ作りを見に行こう」 ・「わたしの夢」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「PAL 稲毛」の見学をし、高等部を卒業して働いている人の様子を知る。 ・見学のまとめをし、自分の夢やこれから頑張りたいことについて考える。 	2時間

5 本單元における生徒の実態

- 「いろいろな仕事」のイラストに載っている18種の仕事はすべて知っている。(別紙資料1参照) また、「仕事のしかた」のイラストを見てもすべての仕事について説明できた。(別紙資料2)
- これまでの学校や家庭生活から、「はたらく」ことに関わる本生徒の様子
 - ・学校での係活動や清掃などは指示を受けなくてもすすんで取り組むことができる。終わっていない場所の手伝いも当たり前のように行うことができる。しかし、隅々まですき間なく・・・ということは苦手である。
 - ・家庭では、小さな姪や甥の遊び相手になったり簡単な買い物を頼まれたり洗濯ものを取り込んだりと、できるお手伝いもたくさんありすすんで行っている。
 - ・自ら気づいて「人のために何かをしてあげよう」という気持ちをもっている。また、次の活動がわかっている時は、「先生が来る前に準備を済ませて驚かせよう」という意欲的な行動が見られる。
 - ・せっかちで不注意な面があり「しごと」が雑になったり、単調な繰り返しに飽きてしまったり、猛暑の中での畑仕事で泣き言を言ったりすることがあり、根気強さには課題がある。
 - ・人との関わりは好きだが、話す力の不足から正確に何かを伝えることがうまくできない。また、人から注意を受けることが苦手で些細な注意で泣いてしまうことがある。
 - ・入学当初は、「コックさんになりたい」と語っていた夢も、最近では「まだわからない」と答えるようになり、頑張った活動を誉めても恥ずかしくて泣いてしまうことが多い。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・「カレーライスができるまで」のイラストを見て、それぞれの工程で多くの人が関わっている事に気づくことができる。
- ・働いている人に対して感謝の気持ちを持ち、自分が「しごと」をした時の自分や周りの人の気持ちについて考えることができる。

(2) 本時の展開 (4/6)

時配	学習活動	支援の方法	教材教具
10	○体験入学を振り返る ・毎日作業がある ・バザーがたくさんある ⇒「はたらく」勉強をしている 「しごと」ができるようになる	・まとめをした時のワークシートを見て思い出せるようにする。 ・「はたらく」「しごと」という言葉をピックアップする。	ワークシート
25	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 仕事ってなんだろう。たとえば、カレーライスができるまでにはどんな人がどんなふう to 仕事をしているだろうか？ </div> ○図を見て、カレーができるまでの工程と働く人について考える ・材料を育てる人 ・運ぶ人 ・売る人 ・工場で作る人 ・カレーを作る人 ⇒いろいろなひとが働いていることでカレーが食べられる ○この人たちがいなかったら、ちゃんと仕事をしなかったらどうなるか想像する。 ・カレーが食べられなくなる。 ・ちゃんと作らないと美味しくない。 ・ばい菌が入ったら食べられない。 ⇒きちんと仕事をするのは大変なこと ○仕事って大変なのか？この人たちはどんなことを考えて働いているか想像する。 ・おいしく育てよう ・おいしいカレーを食べてほしい ・みんなが困らないように失敗しないように、	・Aさんの発言を、教師がプリントにメモしていき、書く負担をなくすようにする。 ・「ドライバーが居眠りしたら？」 「暑くて畑で休憩したら？」 「工場の人風邪ひいてくしゃみしながらやったら？」 「間違えて塩を入れたら？」など、困る場面を具体的に想像できるようにする。 ・自分が作業をした時のことを思い出しながら考えられるように話をすすめる。	学習テーマ プリント 発問カード 紙板書 発問カード 紙板書 発問カード

<p>遅れないようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん食べてくれると（売れると）いい。 <p>⇒大変だけど嬉しいこともあるかな？</p>	<p>○自分が「しごと」をした時の気持ちや成果を思い出す。</p> <p><u>引越しの手伝いでは・・・</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に箱に入れるのが難しかった ・たくさんあって大変だった。 ・喜んでもらえて嬉しかった。 <p><u>バザーでは・・・</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーンが美味しいと言ってもらえて良かった。 ・ガラスがきれいと言ってもらってよかった。 <p>売れて良かった。</p> <p>⇒はたらいで喜んでもらえると、自分もうれしい。喜んでもらうには、失敗しないようにていねいにやったほうがいい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばった様子を思い出せる写真を提示し、自分の「しごと」ぶりに自信がもてるようにする。 <p>・意見が出にくかったら、バザーの時の目標を思い出すよう促す。</p>	<p>紙板書</p> <p>TV パソコン 写真 VTR</p> <p>バザーの目標</p>
<p>5</p>	<p>○「PAL 稲毛」の見学の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを見る ・パイを試食する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試食することで、見学への意欲がもてるようにする。 	<p>パンフレット 試食用パイ 次回のテーマ</p>

(3) 配置図

